

質の高い大学教育推進プログラム 実施状況報告書

大 学 等 名	奈良教育大学		
取 組 名 称	教員養成大学による地域食育推進プログラム －食育オフィスの開設と食育リーダーの養成－		
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組		
取 組 期 間	平成 20 年度 ～ 平成 22 年度 （3 年間）		
取 組 学 部 等	教育学部	取組担当者	鈴木洋子
W e b サイト	http://mailsrv.nara-edu.ac.jp/~suzuki/syokukugp/toppage.html		
取 組 の 概 要	<p>本補助事業の主な目的は、1. 「食育・健康教育プログラム」を開発することにより学校食育推進の中心的存在となる教員「食育リーダー」を養成する、2. 地域の食育の情報の発信母体となる「食育オフィス」を開設することにより学校教育現場を中心に地域の食育の推進を図る、3. 全学生を対象に自己の食生活を管理し、健康的な食生活ができる教員を育成する、の3点である。</p>		

1. 取組の実施状況等

①取組の実施状況 【1 ページ以内】

(1)取組の実施体制：学内組織として「食育・健康教育プログラム実施委員会」を、地域貢献の実践組織として「食育オフィス連携委員会」を設置し、これらを統括する組織として「地域食育推進プログラム運営委員会」を設置した。さらに、プログラム全体を評価する組織として「地域食育推進プログラム評価委員会」を設置した。

(2)取組の実施計画に掲げた内容

①取組の全体スケジュール及び各年次の実施計画：平成 20 年度は、各委員会を組織するとともに、「食育・健康教育プログラム」による「食育リーダーの養成」の取り組みを開始したことを広く全学生に周知するとともに、シンポジウムの開催などにより、地域にむけて事業の開始を発信した。DVD 教材の制作（脚本はオフィスが担当、学生は撮影時に参加）、及び食育かるたの制作（原稿は学生が作成）と配布を行った。プログラム受講学生に本教育プログラムの詳細を説明のうえ、食育リーダーとしての評価に用いるポートフォリオ用ファイルを作成・配布した。平成 21 年度には、2 件の講演会と 1 件の学習会を開催した。プログラム受講学生には、プログラム授業科目を履修する傍らインターンシップ（奈良漬工場）、フレンドシップ（子ども料理教室）、研修旅行（食育科を実践する愛知県寺津小学校への訪問学習）、DVD 教材の制作（オフィスメンバーの指導のもと学生が脚本を担当、撮影への参画）、シニア男性対象の料理講習会のアシスタントなど、食に関する知識と技術を実践的体験的に学ばせることとした。また、新たな授業科目「給食指導」を開設した。平成 23 年度は、3 回の学習会と報告会を兼ねたシンポジウムを開催した。プログラム受講学生の活動内容は前年度どおりとし、本学全学生の食の状況を把握すべく、全学生対象の食生活調査を実施した。

②取組に参加する教職員と学生の数等：(1)に記載の各委員会の構成メンバー及び人数のうち、「食育オフィス連携委員会」は本学の教員 5 名である。「食育オフィス連携委員会」は、大学教員 2 名と奈良県下の小学校教員 4 名、中高等学校の家庭科教員 4 名、栄養教職員 2 名の合計 12 名である。「食育オフィス連携委員会」において、DVD 等の教材制作に関する協議の際は、適宜「食育・健康教育プログラム」受講学生が臨席した。「地域食育推進プログラム運営委員会」は、食育オフィス連携委員会の 5 名に副学長（教育担当）、教務委員長、附属学校からの選出委員 3 名を加えた総数 8 名である。「地域食育推進プログラム評価委員会」は、奈良県食育推進会副議長、奈良県福祉部健康安全局健康増進課課長、奈良県小学校家庭科教育研究会会長等の学外者と学内委員会から選出された教員の構成による総数 6 名である。食育・健康教育プログラムについては、受講した学生は 28 名であるが、食生活調査や生協食堂における郷土料理フェアには全学生が関与している。

(3)社会への情報提供活動

ホームページを通して常時、活動状況を報告した。本学で食育リーダー養成をスタートしたことが 2008 年 11 月 28 日の産経新聞に取り上げられたほか、シンポジウムや講演会の様子が新聞に掲載された。(2009 年 3 月 14 日奈良新聞、2010 年 6 月 21 日読売新聞：同講演会の様子は奈良テレビのニュースでも紹介された。)

②. 取組の成果 【1ページ以内】

・ 食育リーダーの養成：食育リーダーになるための教育プログラム（指定授業科目の履修及びその他授業外での取り組み）を構築し、学生が学びを集約したポートフォリオを当該教育プログラム実施委員会で審査により修了を認定するなど、組織的な食育リーダー養成の仕組みを構築した。

・ 授業科目「給食指導」の新設：授業の中で小学校の給食現場を訪れ、給食に対する理解を深めさせた。また、学級活動の時間に行われた給食指導の授業を観察させ、学校給食が食育の大切な教育の場になっていることを認識させた。給食現場の訪問は、人数に制限があるため、教員を目指す全学生を参加させることは困難であるが、給食場面や食育の授業の観察を全員に課すことは可能である。食育への理解を促すために、教員養成のための必須科目に「給食指導」を取り入れる必要性を感じた。学生の感想には、「給食指導が特に行われていない場合、子どもたちは正しい配膳があることさえ知らないかもしれない。」、「料理にどんな食材が使われているかなんて考えたこともないかもしれない。」、「学校で唯一の食事である給食の時間に、食にかかわる内容の指導を行うことは、今や学校の役目になっていると言える。」、「教師自身も食事をしなければならず、使える時間も少ないが、給食時間や特別活動の時間に給食指導を行うことは必要である。」、「今回の授業で、給食指導の案を出し合え、指導のイメージができた。」などがあつた。

・ DVD教材の制作：オフィス所属の公立学校教職員の指導のもと、教育現場のニーズに応じたDVD教材を制作することができた。DVD教材の制作にプログラム受講学生を積極的に参加させたことにより教材・教育法の開発の視点を直に学び取らせることができた。

・ フレンドシップ（子ども料理教室）：教育実習前の2回生に参加させた。指導の難しさを体験的に学習し、教員になる自覚を深めさせることができた。

・ インターンシップ（奈良漬工場）：食育基本法において地域の特性・食文化を重視することが表記、強調されていることを受け、本取組を取り入れた。実際、2日間、製造にかかわる方々と共に働かせてもらったことにより、職業の厳しさとプロ意識等を直接感じ取らせることができた。このことは、食文化に対する理解の深化に留まることなく、食育リーダーとして教員らをリードする際に有益な効果をもたらすとの感触を得た。

・ 学習会等の開催：オフィスに公立学校教職員が参加したことにより、教育現場の実状に合致した内容の学習会等を開催することができた。学習会の準備段階より登録学生をかかわらせたことで、「食育リーダー」としての責務を強く意識させることができた。

・ 全学生対象の食生活調査：毎日朝食を摂取する学生は5割強にとどまっていた。また、半数の学生は、日常生活において栄養成分表示を考慮せずに食品を購入しており、6割の学生は自分にとって適切な食事内容と量を把握していなかった。これらの結果は決して好ましいとは言えないが、このような現在の食習慣について問題があると自覚している学生は6割以上に達しており、自分の食習慣の現状について問題意識があることは望ましいと言える。食育は、学校全体で取り組む課題であることから、その指導にあたる教員の食生活改善意識を促すとともに食育の必要性を理解させる授業等の取組が教員養成上必要であるのではないかと考える。

・ 食育かるたの制作及び配布：本取組の採択以前に、教養科目「食育と生活」の授業において受講生らが作成したかるたの中からベストカードを選別し、印刷して奈良県下の小学校他に配布した。配布した食育かるたを参考に、自分たちで食育かるたを作った小学校からは「食育かるたをした時に、『食べることで大事にすることがよく分かった』という感想、及び「そのことを参考にして作った子もいます。」との報告を受けた。

③. 評価及び改善・充実への取組 【1ページ以内】

本取組で組織した「地域食育推進プログラム評価委員会」より以下の評価を得た。

・ 全体的な取組について：食育の重要性が叫ばれている現在、教員養成学部において食育教育を充実させ、小中高の教育現場において食育の指導的立場を取れる教員の養成は重要な着眼点であり、更に地域の学校と連携を取り、地域に貢献しながら進めるというアイデアは卓越したものであったと評価できる。

・ 食育リーダーの養成：学内で行われた食育リーダーの養成については、授業、シンポジウムや講演会の開催、見学、インターンシップへの参加、地域貢献事業への参加など非常に積極的に行われており、食育リーダーに登録した学生は熱心に参加した様子であり、その成果は十分に上がったものと評価できる。中でも、学校給食を食育と結びつけるための新設科目「給食指導」が織り込まれており、このような授業は今後教員養成大学においては必要なものであり、他大学でも広く実施されることが望まれる。食育リーダーの資格を取得した学生が、将来教職の場で十分に力を発揮してくれることを期待するものである。ただ、食育リーダーへの登録学生の数が必ずしも多くなかった点では残念であった。

・ 全学生への取組：全学生の食生活調査が行われ、学生の実態を把握できたことは、今後の学生に対する指導や食育の取り組みにとって大変貴重なものである。これを基にし、今回設置された体組成計を活用して一層の学内における食育活動が展開されることが期待される。

・ 地域との連携：食育オフィスが設置され、地域や付属学校の現職の教員との連携で子ども用包丁の貸し出し、食育カルタの配布、授業用DVDの作成と配布等、その活動は大変活発であった。特に現職の地域および付属の教員の熱心な協力が得られ、地域との連携がスムーズに取られて教材の配布が行われ、勉強会・講演会等への多数の参加が得られており、これらの事業に対する地域の学校小・中学校からの評価も高かった。これらのことから、本事業は地域の学校教育における食育の推進に十分貢献したものと評価できる。また、これらの活動に食育リーダーを目指す学生が参加したことは大きな収穫であり、地域貢献と学生の教育が見事に組み合わせられて成果を上げたことは特出している。

制作された教材としてのDVD3点は非常に高度な利用価値の高いものであり、今後広く学校教育の場で活用されることが期待される。

・ 全体的な評価と今後の期待：本事業での目的は、達成できたと評価できる。このような取り組みが、本大学においても継続され、更に他の教員養成大学において同様に行われることが期待される。

④. 財政支援期間終了後の取組 【1ページ以内】

食育・健康教育プログラムによる食育リーダーの養成について、一部プログラム科目を組み替えることにより、継続実施することとした。教育職員免許法の一部改正に伴い、「総合演習」が廃止となることから、「総合演習」として実施していた「食育と共生」を廃止し、その代替として「栄養学実験」を課すこととした。「総合演習」で実施されていたフレンドシップの内容は、「調理実習」に位置づけた。地域貢献の一環として実施してきたシニア男性対象の料理教室も継続し、これまでと同様にプログラム受講学生をアシスタントとして参加させることにした。フレンドシップ事業にかかる経費、インターシップ事業に係る経費は、ひとまず学内経費により配分されることが学内です承された。平成22年度に補助金により購入した「体成分分析装置」は、取り組み終了後も、全学生に開放している。また、プログラムの継続実施のため、「食育・健康教育プログラム実施委員会」は据え置くこととした。

さらに、平成24年度からの新事業として学長裁量経費による「なっきょん食育塾」を計画している。新事業では、受講学生がプログラムの学びをいかし、主体となって全学的な食活動を企画することをねらいとし、事業に参画する教員らはその支援にあたる。具体的な構想としては、「生協で販売している地場野菜の活用レシピの発案」、「発案レシピのレシピカードの作成」、「農作物栽培」、「‘お弁当グランプリ’企画・開催」、「食育ミニコミ誌発行」、「食育カレンダー作成」、「‘なっきょんキッチンアイテム’構想」、「café de なっきょん」など、学生らしい豊かで斬新な発想からテーマを設定する予定である。学生の活動成果は「なっきょん食育塾ブログ」を開設して発信する。生協の協力を得て「学生発案レシピカード」を設置するなど、活動成果を広く発信する計画である。新事業では、学生の活動を応援する講師（料理人やグラフィックデザイナー等の専門家）を招聘し、講師と教員が協同して、学生の取組意欲と活動レベルを高めたいと考えている。事業に係わる教員は、教学担当副学長の塾長のもと、食育・健康教育プログラムの運営に係わる教員の他に、環境教育、栽培、市民教育、家族・家庭経営学、保育学の専門家や生協の理事を務める教員など複数の教員で構成し、幅広い視野から学生の活動の支援にあたることにした。今年度は食育塾の基盤を築くために、教員がリードする場面が多くなることが想定されるが、次年度からは予算の獲得（学生企画費）から学生に任せたいと考えている。このように学内においては、発展的に活動を継続していく見通しができている。

地域貢献については、シニア対象の料理講習会とフレンドシップによる子ども料理教室を継続する。

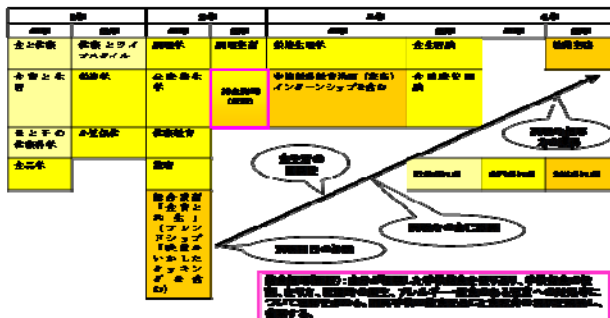
2. 取組の全体像 【1ページ以内】

食育リーダーの養成

食育・食生活教育プログラムの開発と実施
(99名が参加)
「給食指導」の新設
インターナショナル・シンポジウムの導入

DVD教材の開発

- 230枚:奈良県下の図書館、教育委員会、小・中学校等に配布
- 150枚:奈良県下の図書館、教育委員会、高等学校等に配布
- 200枚:奈良県下の図書館、教育委員会、小・中学校等に配布



食生活調査の実施(全学生を対象)
体組成計による測定



生協の料理への組み合わせの提案

学習会・シンポジウムの開催

- 2008年度「奈良県立大学による地域食育推進プログラム」シンポジウム
- 2009年度講演会「食よみです-食育の本音とスーパード-
- 2009年度講演会「日本の食育-英国の食育」
- 2009年度学習会「地域の食文化に視点をあてた食育-熊本県食育サークルのメンバーとの協働によって-
- 2009年度学習会「英米人講師による英米による調理実習」
- 2010年度学習会「小学校教員向けの食育プログラムの実施」
- 2010年度学習会「たし、たし、たし」
- 2010年度学習会「教科書編集者から見た食育の重要性-食育領域を巡って-
- 2010年度シンポジウム「食育は生活を豊かにする」・GP成果報告会

健康的な食生活ができる教員の育成



小学校、地域イベント等で1800セット配布



給食ランチオンマート教材の開発



子ども料理教室の開催(2回開催、総計120名程度の参加)



シニア男性対象料理講習会の開催(18回開催、総計360名程度の参加)

地域の食育推進成